

期限は延長も、英国内の状況に変化が見られるか～英EU離脱

2019年3月25日(月)

今週はそれほど目立った経済指標予定はなく
市場の注目は英国のEU離脱(ブレグジット)問題と、米中通商協議という
二つの政治的情勢の動向に集まっています。

ブレグジットに関しては、リスボン条約第50条で定められた本来の離脱期限が
2年前のブレグジット正式通知から2年たった今週末3月29日となっていました。
しかし、実際に離脱への合意が得られておらず、
仮に合意がすぐに決まったとしても法整備含めて調整の時間が間に合わないこともあり
期限に関しては延長が決定しています。

メイ首相は21日の欧州連合首脳会合(EUサミット)に対して
6月30日までの延期を要請しましたが、こちらは認められず。
トウスクEU大統領は今週中に議会で協定合意を可決できた場合は
5月22日までの延期を認めると示しました。

もっとも1月の230票差という歴史的な大差での否決されたEU離脱協定。
修正して実施した3月12日の二度目の採決でも、149票差と相当な差がついている状況で
二度目の採決と基本的に同じ協定案での三度目の採決が
いきなり合意に向かうという状況は考えにくいです。

EU側もそうした状況は理解しており、
合意なき離脱という、英国にはもちろん
EUにとってもリスクの相当大きい状況を避けるために
4月12日離脱の延期を認めることで合意し、メイ首相に伝えました。

こうした状況を受けて、メイ首相は今週中に三度目の採決を実施する見込みとなっています。
(いったん否決した案に対して再度採決を行うことを拒否している
バーコウ下院議長の説得なども必要)

可決された場合は、トウスク大統領の述べたように5月22日まで離脱日が延長され、
その間に法整備を実施する展開となります。
もっとも穏当な結果と考えられ、ポンドが大きく買われる材料となりそうです。
ただ、可能性はそれほど高いものではありません。

否決された場合は、4月12日までに可決への道を探る展開となります。
そのため、否決と一口に言ってもどの程度の差なのかというのが重要になります。
前回よりも差がはっきりと縮まり、
4月12日までの合意の可能性が印象付けられるとポンド買いになりそう。
4月12日までに合意が難しいという印象を与えるとポンド売りに。
このところリスク警戒感からの円買いが厳しい状況が続いているだけに
ポンド円の売りがドル円の売りを誘いそうです。

4月12日までに欧州議会選挙(5月23日から実施、任期は7月1日からの5年間)に
英国が参加するのかどうかを含めて意識決定が必要となります。
メイ首相への辞任要求を含め、英国の政治情勢が注目される展開が続きます。

米中通商協議への注目も強まってきています。
3月15日までの中国全人代(全国人民代表大会)が開催されており
新たな動きが出にくくなっていましたが、
同イベントが終了してきて動きが活発になっています。

もともとは今月中にも習国家主席を米国に招いて
米中首脳会合を実施する予定となっていました、
知的財産権保護の問題などを巡った対立もあって調整が難航。
そうした中、今週後半28日、29日にライトハイザー米USTR(通商代表部)代表とムニューシン財務長官が
訪中して劉鶴副首相らと閣僚級協議を行う予定になっています。

当面の対中関税維持を示すなど
期待ほど進まない協議への警戒感を示す米国に対して
中国がどこまでの合意可能性を示すことができるのかがポイントに。
大筋合意にまで迫れるようだと、ドル買い円売りの動きが一気に強まる可能性も。